

ユビキタスサービスを支える基盤技術特集によせて

平素より、NECの製品、ソリューション、テクノロジーをご愛顧賜りまして誠にありがとうございます。今回は「ユビキタスサービスを支える基盤技術」を特集します。現在、世界的に、あらゆる情報通信分野においてインターネット技術を用いた新しい基盤づくりとそのサービス開発が推し進められています。通信事業者は、次世代ネットワーク（Next Generation Network: NGN）構築を着々と進め、超高速・大容量・高信頼のIPネットワークを構築しつつありますし、半導体や電子デバイス分野でも、ICカード/タグやセンサのような高性能かつ小型、低価格な部品が多数出現し、それらを組み込んだ携帯電話や音楽プレーヤーに代表される端末や装置がものすごい勢いで出現し普及しています。一方、ソフトウェアやサービス事業者は、新しいソフトウェアやサービスを作り出し、さまざまなビジネスインフラを急速な勢いでインターネット上に構築しています。その結果、もう何年も前からいわれてきた、ユビキタス社会が今こそ実現されつつあります。

その結果として、今日ICTの分野では「超集中」と「超分散」の同時進行という現象が発生しています。「超集中」とは、1社で世界にあまねく同一のサービスを均質な状態で提供することで、グーグルなどが行っている検索サービスはその一例です。一方、「超分散」とは、特定のサービスを実現するシステムの末端に接続される装置の数や種類が大量かつ多種多様になることです。1つのシステムにPCや携帯端末・携帯電話だけでなく、各種センサやカメラ、ICカード/タグなどを通じて情報が入出力されるユビキタス情報アクセスのアーキテクチャが当たり前になりつつあります。最近、Suicaの発行枚数が3,000万枚を超えましたが、Suicaを使った売買が単にJRの乗車券の売買にとどまらず、さまざまな企業のさまざまな商品に広がっていたり、さまざまなサービスと連携しているのが、超分散の好例といえます。

超集中と超分散が進行する中、さまざまなサービスを個別につくるのではなく、各種のサービスで共通する部分の存在が徐々に見えてきました。それら共通部分を個別サービスで作りこむことはコスト的に無駄ですし、個別サービス同士を連携させるときにも、共通部分同士の作り直しが必要になり、それがサービス間連携を妨げる一因にもなります。そこで、共通部分を切り出して、共通基盤として提供する動きが出始めています。今回の特集では、このような先進的な各種の共通基盤を集結し、「ユビキタスサービスを支える基盤技術」と称してご紹介することとしました。共通基盤として最も根幹にあるのは、ID (Identifier、識別情報、1つに定まった名称や番号のこと) です。利用者を認証するだけでなく、ICタグ1つ、サービスの最小単位に至るまで、1つのサービスシステムを超えて、連携するサービス同士でも、すべてのものに唯一のIDを付与し、それをもって超集中、超分散のシステムの内部で認識・管理する必要があります。ID管理を中心に据え、その上位に、新しいセキュリティ基盤や大量情報のデータの分析基盤、広大なシステムの末端まで津々浦々同一のポリシーで管理する統治型アーキテクチャなど、超集中/超分散のシステムを前提にした共通基盤が組みあがっていきます。

NECグループでは今回ご紹介するユビキタスサービスを支える基盤技術やユビキタスサービスの事例以外にも、さまざまな基盤やサービスを実施・検討中です。グローバルに広がるユビキタス社会を更に発展させるべくNECグループ一丸となって取り組む所存です。引き続きご愛顧を賜り、ご指導・ご鞭撻を頂戴いたしたくお願い申し上げます。

取締役 執行役員常務

藤吉 幸博

